

# しゃらりん

10

2006/1

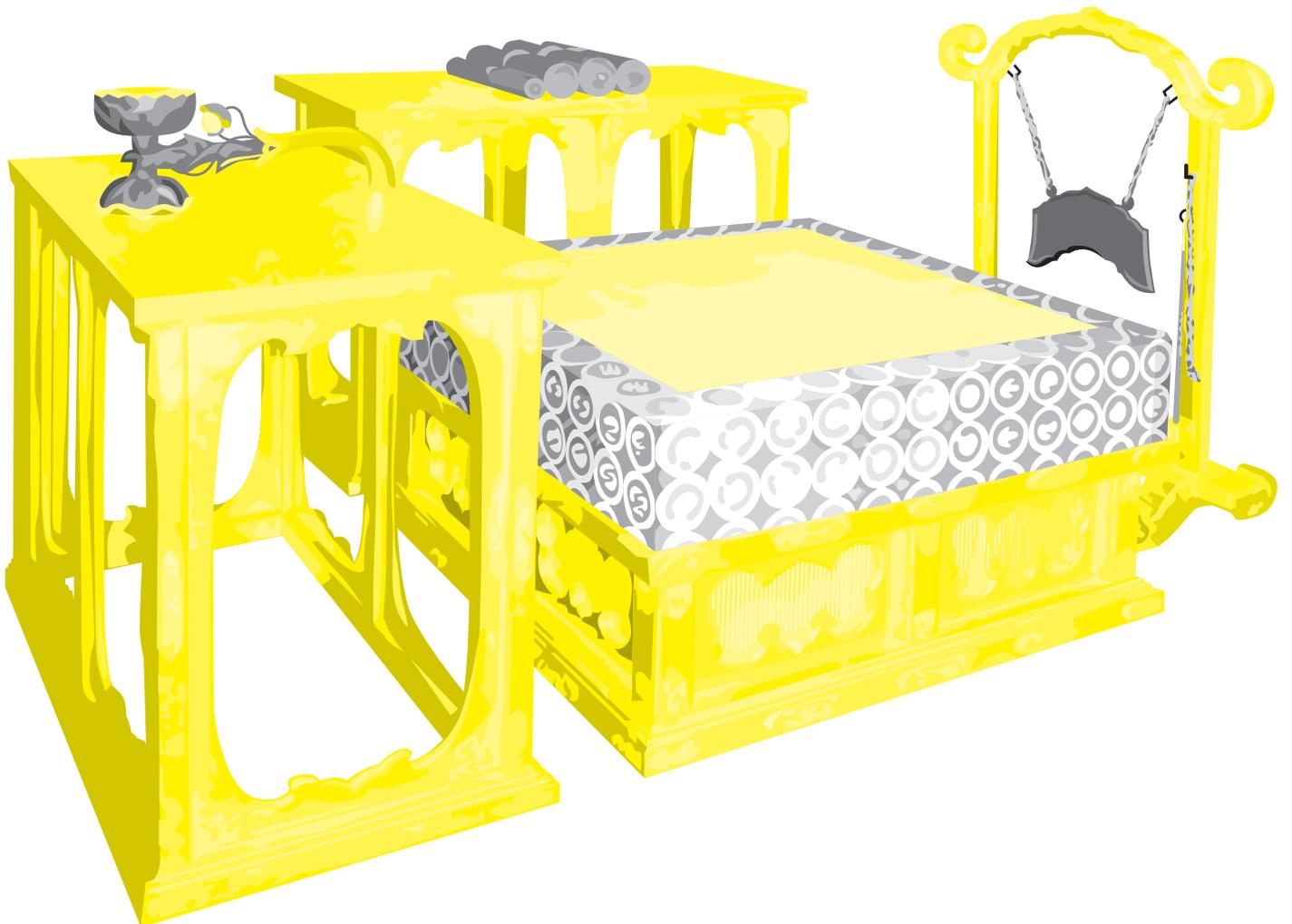
新連載・親鸞の鼓動

「御絵像を語る① 鏡御影」

教区アラカルト

「お待ち受け総上山

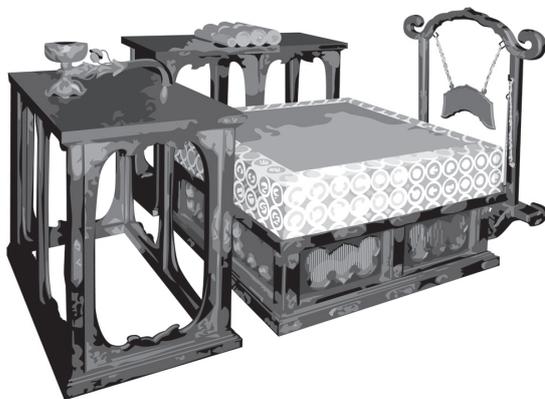
～御影堂修復現場視察レポート」



# 目次

contents

教化リーフレット・出版物紹介	3
親鸞の鼓動 御絵像を語る①「鏡御影」	4
教区アラカルト・特別編 お待ち受け総上山	6
子どもたちとやってみよう／世界の国々	10
アトリエしゃらりん／コラム	11
ちょっといこか／しゃらりんちゃん	12

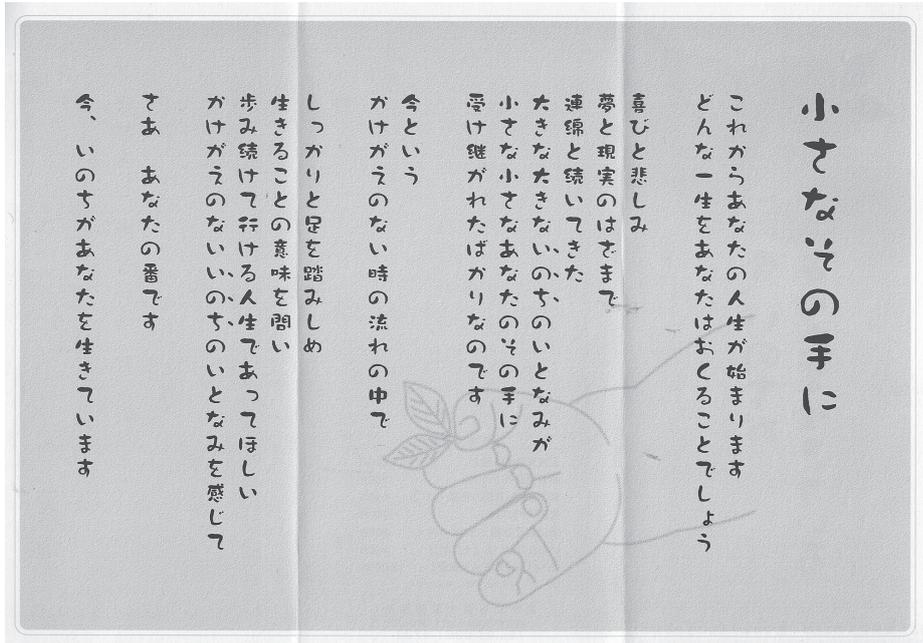


## 礼盤一式【らいはん・いっしき】

本堂中尊前前卓の前に置かれる高座を中心とする道具一式。礼盤(らいはん)・礼盤畳(らいはんじょう)・前机(まえづくえ)・脇机(わきづくえ)・馨台(けいだい)・荘経(かざりきょう)、「式嘆(しきたん・報恩講時)」、経箱(きょうばこ・法要時)・持蓮華(じれんげ・平常時)、「柄香炉(えごうろ・登高座時)」からなります。

# 教区基本テーマポスター、リーフレットを製作・発行

## 教区出版会議



大阪教区では、2005年度の教区基本テーマを宗親親鸞聖人七百五十回御遠忌テーマと同じく「今、いのちがあなたを生きさせている」とし、ポスターを製作して大阪教区内全寺院・教会に発送した。

また、教区出版会議のポスター・リーフレット編集委員会では、新たにポスターと同様の表紙デザインを用いて、リーフレットを製作し発行した。

編集委員会では、小さな赤ちゃんの手に、尊い「いのち」が受け継がれてきたことをイメージさせるようなデザインを採用したことから、テーマ及びデザインを受け止め表現する文言を吟味しながら、一編の詩を作り上げた。

また、年度スローガンに「聞こう 親鸞聖人のことば 見つけよう」とともに生きる「喜び」と掲げていることから、リーフレット末尾には『教行信証』（信巻）から「機の深信」を引用した。

教区内全寺院・教会には、50部づつ無償配布したが、追加希望の場合でも教区内には無償配布する。またポスターも、若干の残部があるため、寺院のみならず推進員や門徒宅等への掲示希望者へ提供している。お問い合わせは教務所まで。

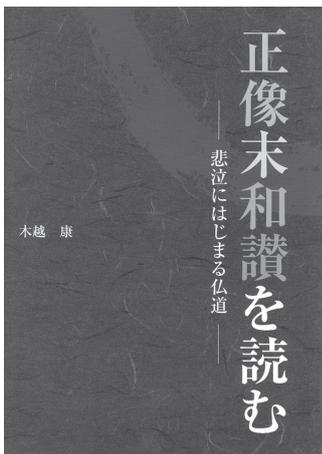


教区から出版された「正像末和讃を読む―悲泣にはじまる仏道―」（木越 康・著）が早くも好評を得ている。本書は、2001年9

月から2002年6月まで10回にわたり、大阪教区教化委員会主催で、木越康氏（大谷大学短期大学部助教授）を講師として開催された「聖典講座『正像末和讃』」の講義を大阪教区出版会議がまとめたもの。

『正像末和讃』の、全体の流れに注目し、その展開の意図を読みとることを中心に講義された内容を損なわないようにまとめられてあり、親鸞聖人がご生涯の最晩年にあってもなお、念仏者として生きていく中で、徹底した自己省察と強靱な思索力をもつて、どうしても『正像末和讃』を書かざるを得ないようなありようが響いてくる内容となっている。

一冊1600円（送料別）。お問い合わせは教務所まで。



# 親鸞の鼓動

七百五十年の響き



親鸞聖人のお姿は、住職・寺族なら毎日のように拝しているのではないだろうか。晨朝しんちやうの時もそうであるが、特にお仏飯をおそなえる時、お顔や眼光を自らの眼前にみて合掌するのが常であらう。少なくとも筆者

はそうである。一般的

にそのような聖人の姿・顔を拝する時、何を考え、何を思うのだろうか。否、何も考えずただ敬意をもつて合掌する場合もある。

現在のように須弥壇が内陣中央にでて木仏本尊を安置する本堂形態になって、本尊の右（外陣からみて）に、「親鸞聖人絵像（御影）」を安置し掛けているのが一般寺院の通常である。その前に出仕着座する場合、「祖師前」ということでも周知であらう。聖人絵像の原形はどこにあるのだろうか、単純な疑問が生じよう。

## 鏡御影

御絵像を語る①

かがみのごえい

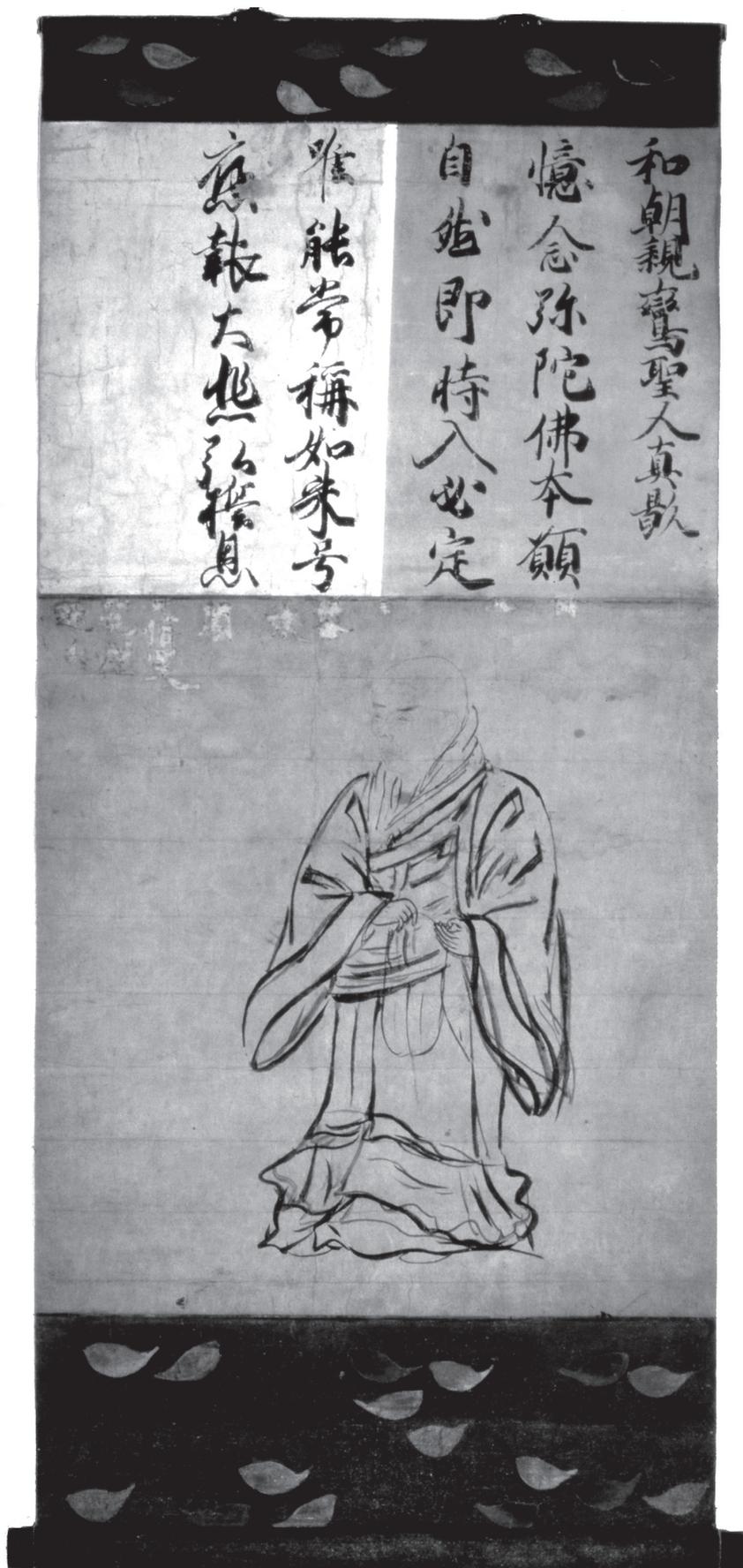
上場 顕雄

聖人絵像の原形ともいうべきなのが「鏡御影」である。これは立像で現在の座像とその像容は異なるが、聖人絵像で最も古く、寿像じゆざうとして知られる。また、鏡に写したごとく聖人の容姿を伝えていることから、「鏡御影」と呼ばれている。寿像とは存命中に描かれた肖像画・絵像のことをいう。高僧の画像は多々あろうが、寿像は絵師が象主と対面して描いており、

描写の正確さや迫真性を最も感じさせられる。寺族・門徒なら、同御影をかつての展覧会や図録などで一度は拝見されたことと思う。また近年はその複製掛軸があり、一般寺院でも報恩講などで床の間にそれを掛けておられ、拝顔する機会に恵まれている。



「鏡御影」は、縦七三・五センチ、横三三・〇センチと比較的小さく、紙本に墨線で描かれている。聖人の頭部や首に巻かれた帽子ぼうしは淡墨の細い線で描かれ、袈裟や衣は濃墨で若干荒々しく描かれている。手には念珠をもつておられる。細線であるが聖人のお顔をよくみると、はりのある額、ややこけた頬、小さな目で鋭い眼光。それにどっしりとした腰や体格。不屈の念仏者としての心うたれるお姿である。聖人が流罪の身で越後時代の厳しい寒さをのり超えられたからであらうか。また、眼光は厳しさの中にやさしさが感じられ、



鏡御影（かがみのごえい）／西本願寺蔵・国宝

その視線と口もとは今にも我々に話しかけて下さるような生き生きとした感をもつのは筆者だけではないだろう。

延慶三年（一一三〇）、本願寺三代覚如上人が御影を修補した中で、絵の筆者は似絵の大成者藤原信実の子である専阿弥陀仏と記し、袴殿とも号するとしている。御影上部の「和朝親鸞聖人真影」と『正信偈』の「憶念弥陀佛本願」以下の四句の讀は覚如上人筆とされ、この修理の際、補われたものである。画像をよく見ると折りたたんだ跡の横に走る線があり、もとは大谷の御影堂に

安置されていた木像の体内に納められていたと考えられている。

現在、「鏡御影」は西本願寺が蔵し、国宝に指定されている。

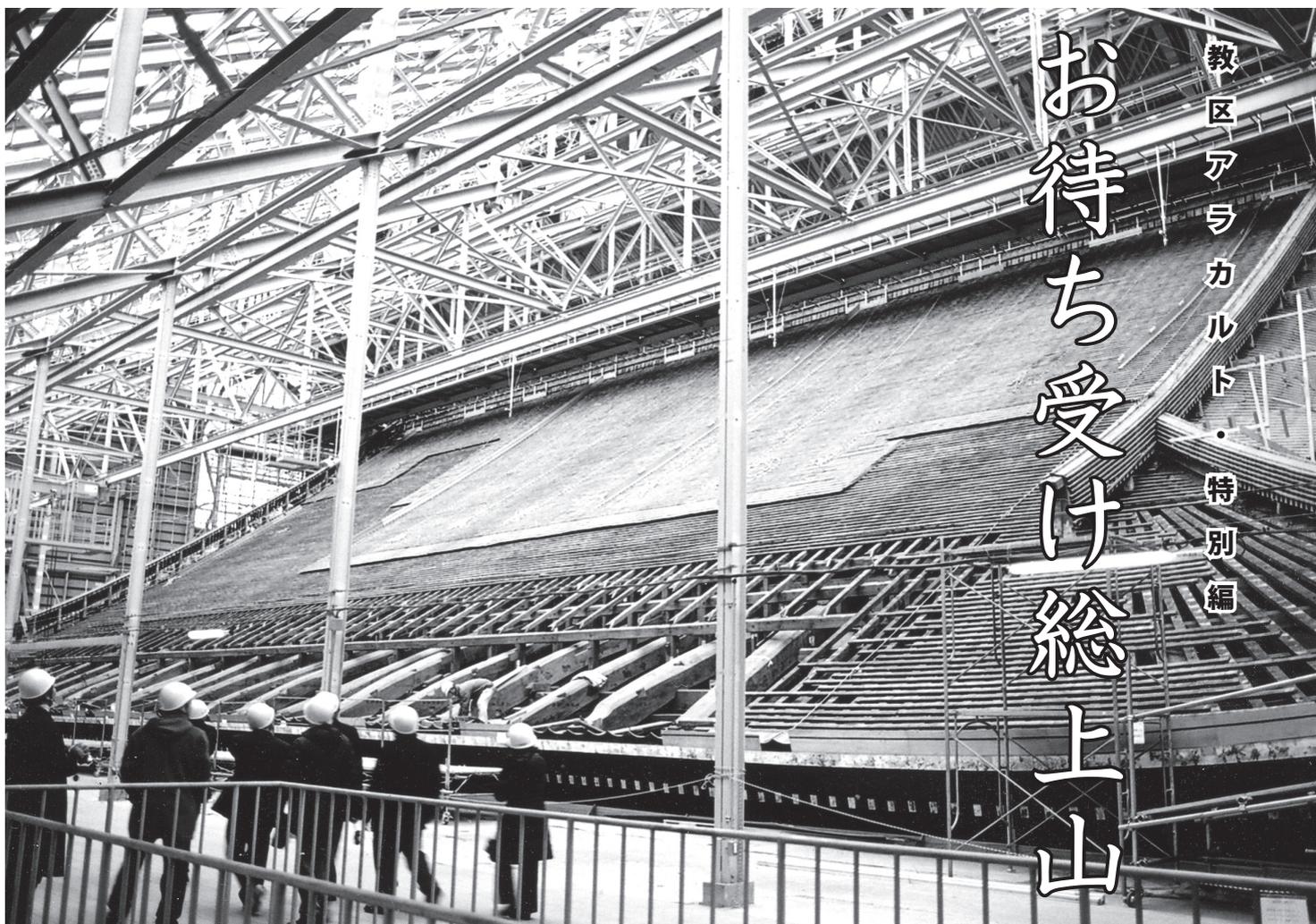
ところで、聖人の室・恵信尼公は父の訃報を伝えた末娘覚信尼公宛に「又、あの御影の一幅、欲しく思いまいらせ候う也」（恵信尼文書第四通）とあり、恵信尼は聖人の御影を形見として所望されたことがうかがえる。「あの御影」とはどれをさすのか不明であるが、消息が聖人命終の翌年であり、寿像であることは確かであり、それが「鏡

御影」である可能性が考えられる。夫婦の敬愛の念を感じる。

聖人像・お姿と対峙する時、聖人が求められた仏道やその心に遇つていこうとする、自らの姿勢が感動をもって生まれてくるのではないだろうか。宗祖七百五十回御遠忌を迎えるにあたって、それは改めて聖人の門徒としての自覚でもある。

（うえば・あきお／第5組圓徳寺住職・教学研究  
所囑託研究員・文学博士）

# お待ち受け総上山



## 御影堂修復現場視察レポート

去る2005年12月9日、大阪教区主催の行事として、各組の代表者など55名にご参加いただき、本山へのお待ち受け参拝が行われました。またそれに先だち、当『しゃらりん』編集部でも御影堂修復現場の見学に行つてまいりました。その時の様子をご紹介します。

 当誌のマスコット、しゃらりんちゃんです。今回は私たちが御影堂屋根修復現場見学をレポートいたします。よろしくね。

 マンガではお世話になっております、しゃらりんちゃんの寺で飼われている犬でございます。聞法犬シロがライバルでございます。名前は……よく考えたらまだないのでございます。ああ、ひどい飼い主でございますねえ。

 もう。そんなことはどうでもいいですよ。それよりあなた、ちゃんとレポートしなさい。

 うー。しくしく。犬使いの荒い飼い主でございます。

それでは、不肖ながらわたくしご報告をさせて

いただきますです。

わたくしたち編集部が見学を訪れたのは12月6日。この年いちばんの冷え込みでありました。小雨降りしきる中、わたくしたちは真宗本願寺（東本願寺）へと参ったのでございます。

参拝接待所にて担当の方より説明を受け、ヘルメットをかぶっていき素屋根へ登ります。わたくし恥ずかしながら高いところが苦手ですが、ちよつと心配だったのですが、まわりはすつぽりと覆われており、なんてことありませんでした。ではここで当編集部の難波記者のレポートをご紹介します。

### 身近になった御修復

難波美千子

御影堂門で合掌した時、白く光る大きな素屋根は寒い冬空の下、一層、冷たく異形に思えた。

御遠忌本部の延澤さんの説明は、耐震の為の工夫の一つである空葺工法から始まり、費用は掛かるが今の時代にこそその瓦や材木等の再資源化で環境問題に一石を投じ、素屋根や工事現場での安全第一主義、バリアフリーな現場視察のためのエレベーターの設置、軒先の不陸工事、明治期の御修復の際の先人の情熱、と階が進むにつれ熱く私の心に響いてきた。工事現場の方の「いやあ、寒いです！」という言葉の中に御修復に関わる全ての人達のダイナミックかつデリケート、そして優しい気持ちを感じた。

御修復に対して今ひとつ身近な事として思えなかった私だが、ほんの短い時間ではあったが、実際に現場に立ち自分の目で確かめ、そこに働く方々の息づかいを感じる事によって、自分との繋がり、過去の人達への感謝の気持ち、先の人達への責任感というものがやつと少し芽生えてきた。帰路、御影堂門でもう一度合掌した私の目に映った素屋根は暖かく、誇らしげに堂々とした姿で思わずもう一度合掌した。



そうでございますね。わたくしも真宗門徒のはしくれとして、御影堂の屋根をまのあたりにして、素直に感動いたしました。



↑御影堂に使われている様々な瓦。65種類もあるそうです



そうそう。ほんと寒かったよね。私なんか水っ鼻が出ちゃいました。あと1時間もいたら帰らぬ人となって同朋新聞の一面を飾っていたかも。

素屋根があるとはいえほとんど外と変わらない気温です。寒い季節に参拝される方はくれぐれも暖かい服装でね。

編集部のある人はホッカイロを持ってきてただけで、他のみんなにうらやましーに見られてたもんね。



……。あんたは最初の感想が「寒かった」かい。こんな飼い主を持ってわたくし哀しいです。

御影堂大棟に取り付ける獅子口は

30個のパーツからなっています。

「小さいサイズで複製を作ってパズル

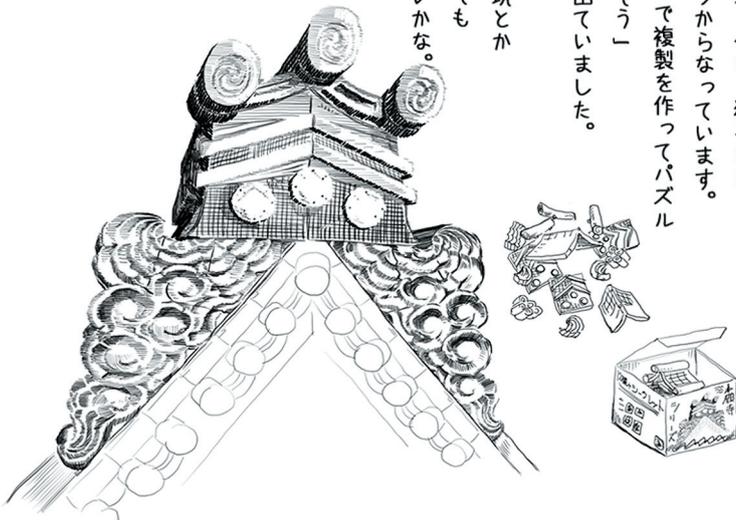
にしたら売れそう」

という意見が出ていました。

今はやりの食玩とか

フィギアとかでも

いいんじゃないかな。



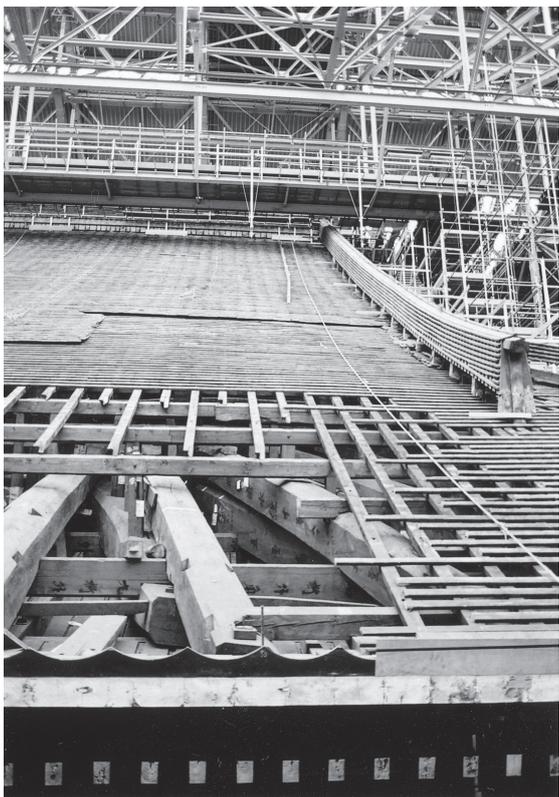
 いちいちつかかるわねえ。わたしだってちゃんと見学したもん。今回の御修復では環境問題にも力を入れておられるんですよ、みなさん。

## 御修復と環境問題

久世見証

今回、しゃりんの取材で向かったのは、現在修復工事中の本山御影堂。参拝接待所で簡単な説明を受けいざ見学に。取材ということで特別に色々見せていただきました。

瓦洗い場を抜けて一路御影堂へ。現場内は各所に写真パネルが掲示されており、通常は参拝接待所の方が付いて説明されます。上下動は3階まではエレベーターがあり、車椅子でも見学できます。



←東本願寺特製ソイルビーンズ。一袋10kg 1900円です

基本的に火気はありませんが、場内には火災警報機や消火器が設置され万全が期されています。

今回の御修復では環境に対する配慮にも眼目が置かれ、瓦だけでなく板一枚も使えるものは再利用が心がけられています。また、雨水タンクが設置され、瓦洗い等水回りに利用されています。さらに、例えば破損の激しい瓦は「ソイルビーンズ」にする等して廃棄物をなるべく出さないように努力がなされています。

百年前の御門徒方が再建された御影堂。その願いを受け継ぎ、いかに後世に伝えるか。その問いかけに答える中に、願いに立てば環境問題が私の問題になってくるのかと感じました。

 瓦も処分しようと思ったたら産業廃棄物として捨てなくてはいけないの。明治の人たちが一枚ずつ手で作られた大切な瓦をゴミとして出すのは、やっぱりちょっとねー。

でも記念品としてお配りしたり、砕いて新しい瓦に混ぜたり、「ソイルビーンズ」という湿気を吸収しちゃう便利な砂利にしたり、またまた境内

のベンチにもしたりして一枚の瓦も「ゴミ」として出さずにすみそうなんですって。よかったねー。

 そうですね。瓦がすべて再利用されるのは、ほんと素晴らしいことですね。

そしてまた、この巨大な御影堂を100年の昔に再建なさった先人のご苦勞を思うと、わたくし感動のあまりほとぼる涙を止めるすががございませんです、うっうっうっ……。

 この犬はなにを号泣してるのかしらん。そんなことだからシロに負けるのよ。

## 温故知新

廣瀬 俊

一枚の古い写真がすべてを物語っているようだった。

御影堂素屋根現場の3階、瓦の無い大屋根の裸々とした素顔を背に、展示してあった写真は

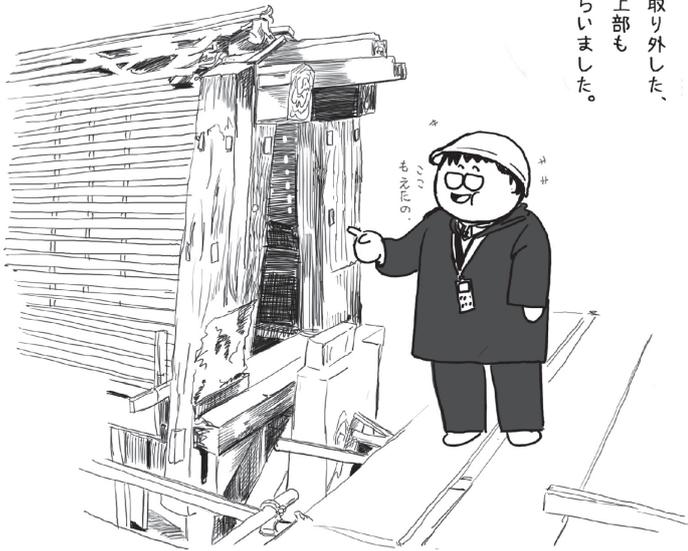


明治期の御修復風景であった。木組みの素屋根はムシロで覆われ、その最上への上り道に、これまた木組みの大きな坂道（スロープ）を烏丸通りより作り、その坂道に何人もの人が

大木の柱を担ぎ上げているたった一枚の古い写真であった。

確かにそうだろう、現在ではクレーンを使い、また油圧ジャッキやローラーを使いスライド工法での素屋根を作るが、そのような機械のない時代の現場風景は想像を絶するものだった。当日、僕たちを案内してくれた御遠忌本部の延澤さんは熱く語られた。「この時代、各地の門徒が集まって、本願寺御修復に尽力された、また烏丸通りから巨大なスロープを作るのだから、きつと地域の絶大な協力もあつてのことだろう」と。

獅子口を取り外した、御影堂最上部も、見せてもらいました。



「この辺に雷が落ちてくすぶってたんです。でも、もちこたえたんですよ」と、なんか、うれしそうに話されてました。

僕の印象の中には、御本山は何かドカッと座り、振り返っているようなものがあった。しかし、明治期のその写真からは、あるいは延澤さんの話からは、地域社会とお寺の関係、お東さんが元氣なら地域も元氣だというような声が聞こえてきそうになつなかりを感じる事が出来た。地域社会と共にあるお寺、そんなお寺の姿を御影堂は明治期より背負つて来た。

さて、私たちはこれから新しい御影堂と共にどんな社会とのつながりを持っていけるだろうか、明治期のたった一枚の写真は、僕にそんな課題を与えてくれたように思う。



そうそう。このおっさんいいこと言うわね。ハードだけでなくソフトも大事なことね。集う人々あつての建物ですからね！。それはやっぱり明治の人たちを見習って、わたしたちもがんばらなくっちゃって思います。



瓦の葺き方を変えたり土を乗せるのをやめたりして、屋根の重さを約700トン軽量化したり、耐震補強をしたりして、地震災害にも強いものにしていきますのも、ひとえにこの御影堂がこれからも何百年にもわたって受け継がれていってほしいという願いからなのでございましょうね。

過去から未来へと繋がる果てしない道の一点を、わたしたちは願われて共に歩み続けているわけでございますよな。南無阿彌陀仏、南無阿彌陀仏。



いつもエサが少ないって文句ばかり言ってる割には殊勝に締めたわね。でもそんなことを言ってもビデオには出られないわよ。

ま、それはともかく、誌面も残り少なくなつてきました。

最後に、本山では御遠忌を機に「お待ち受け総上山」をすすめていらつしゃいます。いろんなプランもあるみたいですから、ぜひみなさんも上山してみてください。

実際の御影堂の屋根の様子は、写真では伝えきれない迫力がありました。そして、いろんなことを感じさせていただきました。たぶんこれを逃すと一生見れないと思うし、機会があればぜひ見学なさることをお勧めします。

それではまたいつかお会いしましょうね。ばいばい。



最後までお読みいただいて、わたくし尻尾が振り切れそうなほどでございます。それではさようならでございますー。



ヨッチーの  
やっどもてちと  
てみまう！

阿吽ゲーム

子どもたちのテンションを上げたいときにはこれ！  
阿側が自分で、吽側が子どもたちです。  
阿側が「オロナミン」と叫べば、吽側の子どもたちに「C」と叫ばせる。このように阿側が叫んだ言葉に続くものを吽側が叫ぶというゲームです。  
覚えてきたらテンポよく連続でやってみよう。

(例) 阿側	↓	吽側
オロナミン	↓	C
リポビタン	↓	D
アリナミン	↓	V
ファイトー	↓	一発
ゴキブリ	↓	ホイホイ
イヤ〜ン	↓	バカ〜ン



近くて遠い国、韓国。お隣でありながら、過去の日本の植民地支配という悲しい歴史もあり、お互いの関係は複雑です。一方60万人を超える在日韓国・朝鮮人が日本に暮らします。最近では韓流ドラマが日本で大ブームを巻き起こしていますし、韓国料理はすっかり定番になりました。そんな韓国をご紹介します。

●国旗：韓国の国旗の模様は東洋哲学の陰陽原理を象徴しています。中央に、「宇宙最高の原理」を意味する「太極」を円で示しています。

●人口：約4819万人

(2004年7月現在)

●首都：ソウル SEOUL

●政体：民主共和制。現元首は盧武鉉(ノ・ムヒョン) 大統領

●領

●国花：無窮花(木槿)。散って咲き、また散っては咲く生命力の強さを、韓国人の歴史と性格に例えることが多く、7月から10月に華麗な花を咲かせます。日本ではムクゲと呼ばれています

●国歌：愛国歌(エグツカ)

●言葉：韓国語。ハンゲルは韓国語の文字のこと。「大いなる文字」という意味です。韓国語は「ハンゲゴ」、または「ハンゲンマル」と呼ばれ、韓国人の間では「私たちの言葉」という意味で「ウリマル」とも呼ばれています。

## 世界の国々

### — 韓国 —

●宗教：仏教は2世紀、高句麗の小獣林王(ソスリムワン)の時に伝来し、その後百濟(ペクチェ)、新羅(シラキ)に様々な影響を及ぼしました。特に建築物や彫刻、絵画、工芸品などに色濃く見られます。国民の約27%。

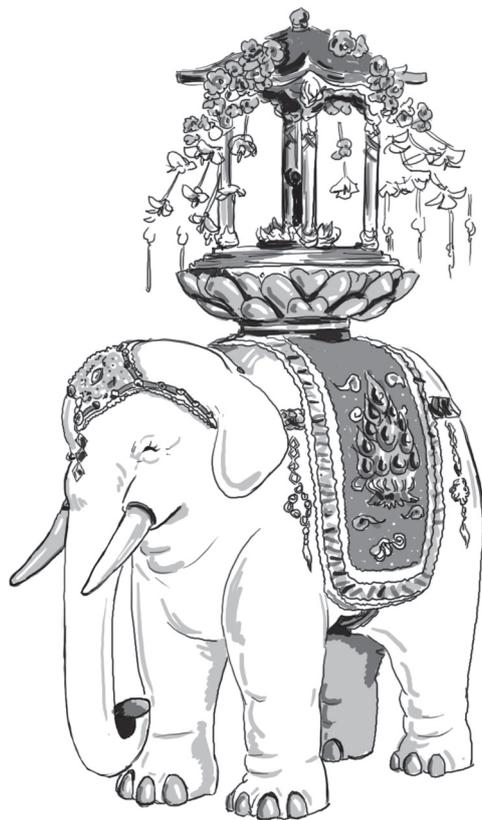
●キリスト教：キリスト教は1882年アメリカと就航条約を結んだ後伝播。始めは迫害を受けましたが、教徒達は日本に対抗し反植民地運動に積極的な参与を見せたり教育の機会を促進させたりしたため、だんだんと受け入れられ、現在では国民の25%がキリスト教徒だと言われます。

●儒教：基本的に仁の重要性を説き、古代韓国社会の共有思想となっていました。次第に韓国精神と交じり合い変化しながら、倫理体制、生活様式、国家法に重要な可欠な要素です。韓国人の意識に深く根を下ろし今日まで持続する儀式等からもその影響をみることができます。

●その他：シャーマニズム 天道経など

# アトリエしゃらりん

画・北川浩三



<http://www.icho.gr.jp/shararin/sozai/>

## コラム「お墓のミツキーさん」

先日、面白い光景を見た。

あるお寺のお彼岸の座に友人が法話をすることとなった。勉強会仲間で、勉強を兼ねてそこに集まろうと示し合わせた。しかしお彼岸の法要はお昼のこと。僕自身も法務もあり時間がギリギリとなってしまった。もう始まる時間が迫っている。「間に合うだろうか」と汗をフキフキ急ぎ足で歩いていると、その途中に墓地があった。

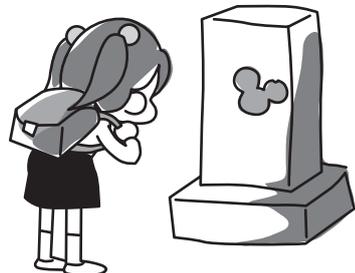
いかにも村の共同墓地といった感じのお墓。ふっと目をやると、その墓地の真ん中辺りで、小学校低学年ぐらいのランドセルを背負った二人の女の子が、なにやら朽ち果てそうな古いお墓に近づいて、ヒソヒソ話している。小学校の下课時間ぐらいだったのだろうか、道には数人の小学生も歩いていて。しかし、墓地の真ん中で、女の子が二人それも相当その古いお墓に近づいて話している。ちょっと不思議な光景である。別に聞き耳を立てるつもりも無いが、やはり気になる。そこに聞こえてきた言葉はこうだった。一人の女の子が「ミツキーさんや」と言った。もう一人が「ほんまや」と返し。二人はケタケタと笑いながら、お墓を離れ墓地から出ていった。

僕は急いでいた。時間ギリギリで急いでいた。がしかし、その「ミツキーさんや」

が気になってしかたがない。女の子たちが立ち去った墓地の中ほどまで見に行くと、朽ち果てそうなそのお墓にはシミやらカビのような色も沢山ついていて。その中の一つが、あのデイズニーのミツキーマウスの形そのものになっている。偶然であるのだろうかが見事だ。本当に見事だった。

そんなお墓のシミに出くわしたのが大人だったらどうだろうか。「体の調子が悪いのはこれのせいだ」とか「子供が受験に失敗した原因を見つけた」とか、ついには「何代前のご先祖がネズミに悪さした、そのネズミの祟り」と騒ぎ出すのが想定内のことだろう。しかし、そんな我々に対して小学生から見た古いお墓のシミは「ミツキーさん」だ。恐れることもなく、古いお墓の前で笑う二人の少女を見ていると、祟る祟るが空しくなってくる。誰が崇っているのだろうか。祟る先祖が怖いのではなく、ほんとうに怖いのは、先祖を崇る悪者・悪霊にしている私たちそのものではないかと思うことであった。

(廣瀬)



# しゃらりんちゃん

## ヨッチー登場 編



## OSTERIA Q.T.8

オステリア クティオット

たまには洋食をとということで選んだのが今回のイタリア料理店「OSTERIA Q.T.8」。店名の「OSTERIA」は日本の居酒屋に相当するイタリア語で、高級レストランでもなく、一杯飲み屋でもない、みんなで楽しめるお店とのことです。

店頭には自家栽培のハーブ（もちろん料理に使います）。明るい店内にはテーブル席が24席、カウンター席が6席あります。壁の大きな黒板に、フランス産のエゾシカや、長野の契約農家から仕入れる無農薬野菜、毎朝市場で買いつける新鮮な魚貝類で作るメニューが並びます。同じくヨーロッパ各国のワインが20種類位リストアップ（2500円～）。でも、隣に久保田の萬寿がおいであったり…



さて、まずはビール（ギネスあり）で乾杯して鯛のオイルサーディンやエゾシカのカルパッチオを。チーズたっぷりのオムレツや牛肉の赤ワイン煮込みもおいしくお酒が進みます。肉料理に合わせて赤ワインにしましたが、カクテルや焼酎もあるので好きな方はどうぞ。最後はデザートにアイスエスプレッソで締め。

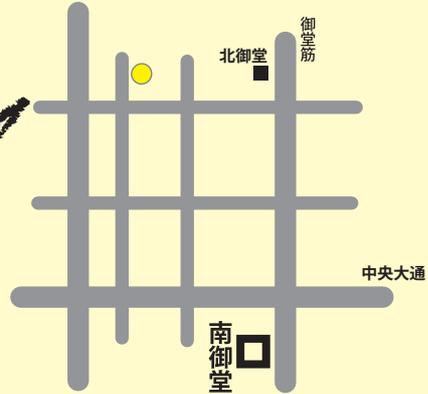
6人でワインだけでも2本飲んで4000円行かず。ボリュームたっぷり満腹でした。ランチもあるので足を伸ばしてみてもは？（久世）



■南御堂周辺のお店紹介

大きな黒板に、フランス産のエゾシカや、長野の契約農家から仕入れる無農薬野菜、毎朝市場で買いつける新鮮な魚貝類で作るメニューが並びます。同じくヨーロッパ各国のワインが20種類位リストアップ（2500円～）。でも、隣に久保田の萬寿がおいであったり…

[OSTERIA Q.T.8]  
 大阪市中央区本町4-5-15 本町OSビル1F  
 TEL06-6265-3719  
 営業時間●11:30~15:00/17:30~24:00  
 定休日●なし



発行日：2006年1月1日  
 発行所：真宗大谷派大阪教務所  
 大阪市中央区久太郎町4-1-11  
 TEL06-6251-4720  
 発行人：比良正士  
 編集：第4組 常樂寺・久世見証  
 第9組 看景寺・豊島幸代  
 第9組 淨圓寺・難波美千子  
 第10組 是三寺・北川浩三  
 第12組 清澤寺・澤田 見  
 第17組 法観寺・廣瀬 俊  
 第27組 願隨寺・平野圭晋  
 第27組 信證寺・吉内利彦

<http://www.icho.gr.jp/shararin/>

## 編集後記

◆紅葉で有名な箕面市ですが、春には桜、秋には銀杏がきれいな道があります。晩秋のある日その道を通りながら、同じ道にある同じ銀杏なのに色づき方が実に様々なのに気が付きました。もちろん、日照、雨水、風の当たり方などによって変わるのでしょうが、どの樹もやがては、全て葉を落とし、また来年芽吹いてくるのです。◆この度なんの能力もないのに無謀にも「しゃらりん」の編集に関わらせて頂くことになり、初めての取材が御修復現場視察という幸運でした。銀杏に例えるなら葉もまばらな樹のような私ですが、他の編集者の方々に付いて真摯に学んでいき、来年は少しでもたくさん葉をつけることができるよう頑張っていきたいと思います。◆各組、各寺院内でのコミュニケーション作りのみならず、コピーして檀家さんにも配りたくような、御堂筋で一番大きな銀杏の樹のように豊かな「しゃらりん」に皆様と共に成長させていきたいと思えます。(M)